

7	主題：モンテッソーリの手法を用いた認知症ケア	
	副題：一人ひとりが自分で選ぶ暮らし	
部 門 : <input checked="" type="checkbox"/> 施設 <input type="checkbox"/> 在宅 <input type="checkbox"/> 地域包括ケア <input type="checkbox"/> 市民活動		
事業所種別・名称	優っくりグループホーム町田森野	
発表者：北澤 冴子	アドバイザー：神吉美弥子	
共同者：菅原 真紀		
電 話：042-851-8521	e-mail：machida-grouphome@foryou.or.jp	
FAX：042-851-8527	URL：	
今回の発表の事業所 やサービスの紹介	町田市森野で認知症の方のグループホームを運営しております。地域とのかかわりを大切に、優っくり、一緒に、楽しく、を目標に、認知症の方の生活を支えています。	

<p>《1. 研究前の状況と課題》 これまで利用者ができる家事も職員が行っていたり、レクリエーションも全員に同じものを提供するなど、画一的な対応が多かった。</p> <p>《2. 研究の目標と期待する成果・目的》 モンテッソーリの手法を活用し、入居されている皆さん一人ひとりが活動を選択して、自分のペースで行えるように支援を行う。認知症があってもその方らしい暮らしが実現できるようケア方法を確立することが目的。</p> <p>《3. 具体的な取り組みの内容》 取り組み</p> <p>① 「大切にしている10のこと」をご本人に伺い、暮らし方に対する意向の確認</p> <p>② 評価ツールを用いて、残されている能力の確認や、BPSDの評価を行う。(BPSD+Q、プール活動レベル、識字評価) 評価は5月～10月の間に定期的実施する。</p> <p>③ 混乱しやすい場面では、認識しやすい表記で環境を整える。</p> <p>④ 、自発的に活動が行える環境づくりを行う。</p> <p>⑤ モンテッソーリの勉強会を定期的開催し、職員間の共有を行う</p> <p>⑥ メモリーブックを活用し、自分への肯定感を高める</p>	<p>《4. 取り組みの結果と考察》 モンテッソーリの手法を活用して環境を整え、自発的な活動を支えることで、認知機能の低下から揺らぎやすくなっている自己肯定感を高め、混乱や不安を軽減することができると推察される。</p> <p>《5. まとめ、結論》 利用者を多角的な評価を行うことでその方の残された能力に着目した個別ケアを実践できると考える。これまでの生い立ちを知り、気持ちに寄り添うことで、安心して生活できる。</p> <p>《6. 倫理的配慮に関する事項》 本研究発表を行うにあたり、本研究と当法人の個人情報規則に決められていること以外には使用しないこと、不利益を被ることはないことをご本人とご本人に説明し、同意を得た。</p> <p>《7. 参考文献》 「プール活動レベル 認知症を持つ人の活動評価～個別支援まで」JackiePool 著 医歯薬出版</p>
--	---